

設計・施工資料	内装建材	樹脂製化粧見切
	見切・目地	高意匠壁見切 カベ見切K-2T

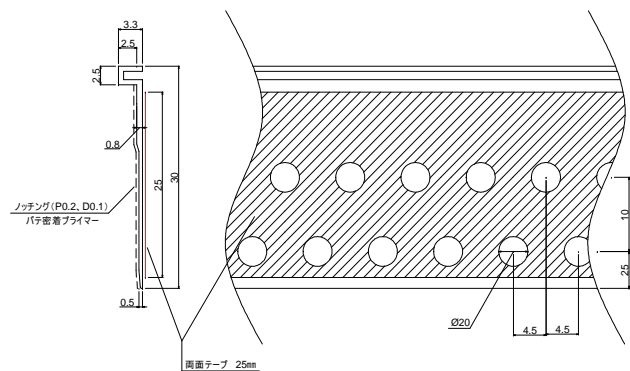
■設計施工時の注意

本製品は屋内の壁見切です

- ！注意**
- 本製品は屋内の壁用の見切材です。それ以外の目的には使用しないでください
  - 使用の範囲：壁の入隅、壁の中間見切
  - 冬場に本製品を施工する際には、室温が5℃以上となるようにしてください
  - 塗壁を施工する場合は、パンチングがある側には施工しないでください。
  - 本製品の在庫保管や施工時の一時保管の場合は、雨や直射日光の当たらないところに平置きで保管してください

■製品図

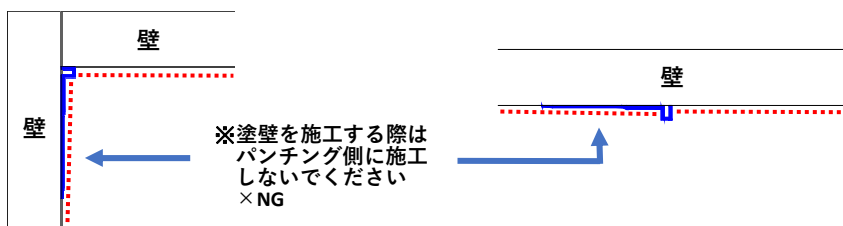
カベ見切K-2T



■基本納まり図

◆壁一壁 納まり

◆壁中間 納まり



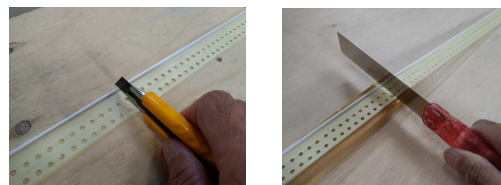
■施工要領

- ①壁の下地を綺麗にする  
石膏ボードの切粉や埃など下地の汚れや埃を拭き取ってください  
見切材の密着度に影響します ※合板下地にも対応可能です



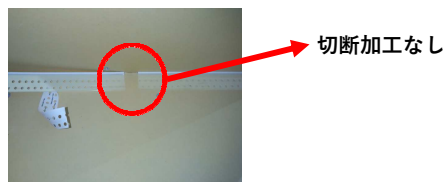
**ポイント！**  
少々湿り気のある雑巾で汚れを除去してください

- ②長さを切断する  
カッターもしくは手鋸にて切断してください  
※樹脂切断用の**はさみはNGです**（切断時に見付をつぶしてしまう為）



**ポイント！**  
見付をつぶさないように注意して切断してください

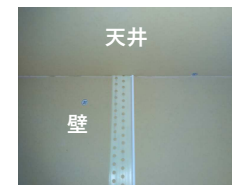
- ・ジョイント部  
長手にジョイントする際には、**突き付け施工**してください  
※ジョイントの突付け部は、**切断加工を施していない面**を使用してください



- ③下地への貼付け  
裏面の両面テープで仮止めします  
※テープの剥離紙は、見切の位置を合わせた上で、引き抜き、見切を貼り付けてください

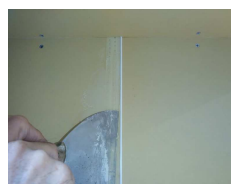


・壁入隅部



・壁中間部

- ④パテ処理  
下地材の段差を隠すため、パテを入れてください。最低でも2回（下パテ、仕上げパテ）、段差が出る場合は3回パテ処理してください



見付に付着したパテは**クロス貼後に濡れスポンジで除去**してください

- ⑤仕上げ（クロス貼、塗壁など）  
クロスは見切を定木にして切断してください  
※切断する際、**見切部を切断しないようご注意ください**

**塗壁をパンチングがある側に施工しないでください**

